No. 13（2015. 11）

武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部

FDニュース

第13号

● 目　次 ●

〔1〕平成27年度の活動状況について
〔2〕短大生対象 FD 座談会での意見について
〔3〕文学２号館が生まれ変わりました
〔4〕編集後記

FD 推進委員会は“学生の主体性・論理性・実行力を培う教育”を推進するために、授業内容及び方法の改善と向上に資する全学的な取り組みを行ってきました。今年度は、それらの取り組みが各教員の実践に繋がるよう、今まで以上にわかりやすく具体的な形で提供したり、情報共有をしやすい仕組みを取り入れながら、実効性を高める工夫をしています。

平成27年度の活動状況について

1．授業改善のための取り組み

◆授業公開

本学では、従来から授業公開とそれに対する討論会等を開催していましたが、平成24年後期からは非常勤講師も含めた先生方の全ての授業について公開しています。学部・学科を越えた教員相互の授業参観を通じて教育方法や教材等の工夫についての情報交換やアドバイスを受けることで、授業改善の活性化を図っています。なお、全ての教職員が参観可能ですので、事務職員の方もぜひ積極的に大学の授業を参観してください。教育環境の改善や効果的な教育支援のあり方等について職員の視点で検討、提案いただくことが、教職協働による教育改善・改革に繋がると考えます。

◆授業の工夫事例の集約と情報共有

学生の主体的な学びを促進するために、先生方が授業において試みられた工夫や失敗の事例をとりまとめ、冊子として発行する予定です。個々の授業における工夫は、学部・学科や授業形態等の諸条件の異なる全ての授業で応用できるものではありませんが、事例を共有することで同じような課題を持つ先生方にとって改善のヒントになればと考えています。ご提出いただいた300件を超える事例について、現在、編集作業を進めています。更に冊子のみにとどまらず、事例をデータとして検索・閲覧できる仕組みについても検討していく予定です。

2．研修会・勉強会の開催

◆新任教員 FD 研修会〔平成27年７月25日（土）実施済〕

昨年度開催し、好評をいただいた能動的学修に関する勉強会の内容をベースに、新任の先生方を対象とした研修会を開催しました（講師：教育研究所助教　寺井朋子先生）。

本学に就任してから現在まで、日々の授業において感じることや課題をテーマにグループワークと発表を行いました。参加された先生方からは「他学科の先生と課題や情報の共有が出来て良かった。」「グループワークで能動的学修の効果を実感した。是非実際の授業に活かしたい。」といったご意見をいただきました。一方で「学生の学力差や学修への意識・モラルの問題とそれに対する指導のあり方」「学内の教務上のルールや施設・設備の運用等についての疑問」等、大学全体の教育改善・改革にかかる事項も課題としてあげられました。これらについては、今後の FD 活動においても検討を進めていく必要があると考えています。

◆各種勉強会

過去の勉強会・研修会でいただいたご意見等を参考にして、今年度は、学生の主体的学修の促進や、授業計画・成績評価に関するテーマを候補とした勉強会を企画検討中です。実際の教育活動の改善に直結するワークショップ形式の開催を考えておりますが、詳細については決定次第お知らせします。

その他、昨年開催した短期大学部学生対象の学生 FD 座談会で出された意見の集約と授業改善への活用の検討や、高等教育・FD に関する学内外の最新情報の収集・提供等の活動を継続していく予定です。

短大生対象 FD 座談会での意見について

FD 推進委員会では昨年、短大生を対象とした学生座談会を実施しました。
その後、FD 推進委員会や教育改革推進委員会、各学科において検討された内容を以下のとおり学生にフィードバックします。学生の率直な意見を受け止め、各先生方においても該当すると思われる項目については早急な改善をお願いいたします。

1．短大全体として考えるべき意見について

①短大の授業について

学生からの意見	大学からのコメント
専門科目が多いために興味があってもなかなか共通教育科目が取れない。	専門科目の全てを履修するのではなく、履修科目を精査してみてください。また、２年生以降も共通教育科目を申し込むようにしましょう。
授業が複数クラス合併開講になった際に騒がしさが増す。	私語が続くようであれば担当教員に改善を希望すると伝えてください。担当教員において改善されない場合は東館１階教務部に申し出てください。
質問を投げかけたり、答えを求める授業展開をしてもらえれば学生の態度も変わる。淡々と板書したり、スクリーンに投影するだけの先生もいる。学生に質問することは大事だと思う。	大学としても担当教員からの一方的な授業ではなく、双方向授業、アクティブラーニング等の新たな手法を用いた授業を促進しています。より一層努力を続けます。
受講者数に対する教室の大きさが適正であれば、私語は減り、授業は成り立つと感じる。	できるだけ適正規模での教室配当を心掛けていますが、限られた教室数の中では不可能な場合があります。授業運営に支障をきたしている場合はまずその旨を担当教員に相談してください。
授業中の私語を注意されない先生もいる。自分の学科では注意される先生が比較的多いが、注意されると先生に嫌な印象を持ち、更に騒がしくなることを繰り返している。まずは学生自身の改善が必要だと思うが、先生と学生が話し合える場があればと思う。	良好な授業運営は担当教員と学生の信頼関係によって成り立つと考えます。初回の授業時に受講にあたってのルールを確認するように教員に対し、全学的に周知します。
先生の指示のまましているということが多く、私たちが学んでどうなるか、何のためにこれが必要なのか理解していないために授業をつまらなく感じ、騒がしくなる気がする。	学内では卒業までに学ぶ科目の関係性がわかるようにカリキュラムマップの作成を進めています。また、「科目目的」「到達目標」を確認したうえで授業を進めるように教員に対し、全学的に周知します。
大学ではレポートが返ってこないことに疑問を感じる。何でこの点数なのかを確認するためにレポートを確認したい。直さないといけないのであれば、その部分をポイントとして改善しないと、次に自分が活かしていけない。	授業時に実施されるレポートが返却の対象であるか担当教員に確認してください。学期末に行われるレポート内容については採点異議を含めて東館１階教務部を通じて担当教員に確認を行いますので、申し出てください。

②授業外学習について

学生からの意見	大学からのコメント
先生によって全然レポートの分量が違う。適当な紙１枚だけの先生もいれば、今の先生は10枚以上書くように指導される。レポートは勉強にはなるが、他のクラスと不公平感を感じる。	同一科目においてはクラス間で差が生じないようにコーディネートすることを心掛けていますが、教員間でうまく連携が取れていない可能性があります。全学的に徹底が図れるように教員に対し、周知します。

③授業アンケートについて

学生からの意見	大学からのコメント
自由記述を毎回全員が書いたとしても、先生がきちんと見ているのかなと感じる。	授業アンケートの回答は、各担当教員が確認することになっています。授業アンケートは受講者の協力と担当教員のフィードバックのもと成り立ちます。フィードバックや改善が図られていないと感じる場合は東館１階教務部に申し出てください。
選択肢よりも自由記述が良い。選択肢で「大変そう思う」と回答しても、その学生が何についてそう思ったかが理解してもらえない。小さい紙で良いのでコメントとして書いた方が学生が求めることが伝わりやすい。	現在の授業アンケートでは選択肢と自由記述の両方を用意しています。担当教員に伝えたい想いがある際はぜひ自由記述欄に入力してください。
私の周りでは編入する学生が多く、敏感になり過ぎて、改善を要望したら先生に個人を特定され不利になるのではといった噂話が出ていた。	授業アンケートシステムでは個人を特定できないように配慮しています。よって、改善要望が学生個人の不利益につながることは決してありませんのでぜひ率直な意見を記入してください。
いろいろ設問項目があるが、学生側がやって欲しいといったことを聞いてもらいたい。また、書いたことが改善されていると実感するように具体的にフィードバックを返して欲しい。	現在の授業アンケートでは選択肢と自由記述の両方を用意しています。担当教員に伝えたい想いがある際はぜひ自由記述欄に入力してください。また、担当教員より必ずフィードバックを返すように全学的に教員に対し、周知を図ります。
授業のやり方に対してみんなで同じ要望を書いたが、改善されなかった。アンケートを形式的にやっているだけと感じたので、前期はやったけど、面倒くさいので後期はやらないという感じになりました。しっかり次に反映できるように工夫して欲しい。	授業アンケートは授業の改善に活かすために実施しており、形式的に行っているわけではありません。受講者からの率直な意見を受け止め、改善が図られるように教員の意識改革を進めていきます。

④施設・設備の要望について

学生からの意見	大学からのコメント
飲食の場所が無く困る時がある。看護学科で更に学生数が増えれば立って食べるしかなくなるのではないか。今でも全然椅子がなくて、ぎゅうぎゅうで座ってベンチで食べている。	大学として屋外でも飲食できるスペースを設けたり、隣接の会議室を開放し食べてもらえるように対応しています。学期始めは特に座席が足りない状況は認識していますので、今後も少しでも是正できるように検討していきます。
試験期間の図書館の混み具合がすごい。１人席がすごく好きで、そこを目指して行くが、全部埋まっている。試験前だけでも椅子や机を増やせないか。	試験前には多くの学生が利用するためどうしても混雑してしまいます。一時的に机椅子を設置することも難しいことから、共有スペースや空き教室を上手く活用しながら学習に取り組んでください。
教室までの移動はエレベーターか階段だが、エレベーターは数がとても少なくすぐ混むし、階段で７階まではきつい。	教室配当時にはできるだけ移動が少なく済むように配慮していますが、全クラスに対応することはできません。可能な範囲で混雑する時間帯を避け、移動ができるように協力をお願いします。

2．学科・部署固有の問題に関する意見について

学科･部署	学生からの意見	大学からのコメント
短英	留学中はモチベーションが高かったが、帰国後から２年次が始まるまでの空白の期間が長過ぎ、モチベーションが下がった気がする。	留学終了後の空白期間について、今年度からの試みにブッククラブを実施したいと考えています。 休み期間中に　図書館の電子書籍を利用し　５～８冊ほどの課題を与え、ブックレヴューを提出させるというものです。
短心	心理学は人の心が読み取れる部分があると思い学科を選択したが、すごく専門的な知識に関することが多く、実際の現象に結び付けて考える内容がとても少ない。実践的なことがないので目標を持ちにくい。学生も「私達はいったい何を勉強しているの？」という感じになっており、だらけている感じがする。目標を立てられるようにすることや、資格が取れるようにカリキュラムを組んでもらう方が良い。学んだことが実践的な対人関係で活かせるような勉強を取り入れて欲しい。	１．心理学の理論中心の講義科目においても、 ①　そこでの学びと実際の場面での照らし合わせを意識した授業展開 ②　担当する科目と他の科目とのつながりを紹介するなどの工夫を取り入れるように科目担当者に周知します。 ２．アクティブラーニングを取り入れた実践的な科目として、すでに次の科目が設置されています。 ①　心理学実践研究 ②　心理検査法の実践 ③　プロジェクトマネジメントの実践 ④　コミュニティボランティアの実践 ⑤　レクリエーションアクティビティ ⑥　コミュニケーションワーク ⑦　コミュニケーションワーク実習 ⑧　オフィスワーク関連の科目 例え「心理」という名称が科目名になくても、実社会における人との関係づくりには欠かせない実践的科目です。 残念なことに、上記③、④などは履修者が少ない科目です。２年生になると就職活動や進学対策などで履修しない学生が多く、また、アクティブラーニングのような学生主体となる授業展開を避ける傾向もあると思われます。２年間のカリキュラム全体を知り、是非多くの学生に履修してほしいと願っています。 ３．上記２．については、担任ガイダンス時の履修指導に加えるように担任に周知します。
短健	入学前の説明会では、実践現場の教員が多くいるので教員を目指す人は色々学べるとの説明を受けた。しかし、今、教員になりたい学生たちの間では、「習っている内容は教員になった際に知識としてあればいいだけで実践現場では必要ないのでは。」とよく話題になる。	学科として現在、28年度入学生からカリキュラム改革を検討し、教職だけではなく２年間の学習活動において、専門の基礎知識獲得並びに少人数制の主体的に実践教育を伴う、課題解決型アクティブラーニング演習を取り入れる計画です。
短食	栄養士になった際に使える知識をしっかり教えて欲しい。淡々と説明するのではなく、資格のための知識や取得後に役立つこともきちんと教えてもらえる授業は聞きたい。	学生からの意見を真摯に受け止め、栄養士として実践力をもつような生きた授業展開を工夫します。 具体的には、ワーキンググループを作成して検討会から始めます。短大のみに非常勤講師が多いわけではありませんが、専任指導型の授業体制を作成したいと思います。
短生	ミシンをもう少し使えるようにしてもらいたい。午後５時までになっているが、授業があって使えないときもある。	実習室の多くは機械・工具など危険が伴うものが設置されているため、原則として開放していません。その中で、ミシンのある実習室は、使用中にトラブルが起こった場合もすぐに対応できるように教員・助手が監督できる時間帯で、授業時間外でも学生さんが教室や備品を使用できるようになっています。授業が多く開講されているため開放されている時間が少ないのが現状ですが、その機会をうまく利用して、計画的に今後も利用してください。 尚、寮や下宿でミシンが手元になく、やむを得ない事情で実習室の解放時間にどうしても使用することができない場合は、科目担当者あるいは実習室の管理者に相談に来てください。
	実習が週に３、４回程度あるので、最終課題の時期は多くの課題を抱えている。連日徹夜したり、夜８時までMM館のパソコン教室に残っていたりもする。課題が終わったら今日はやっと寝られるといったような生活で忙しい。自分で頑張った達成感や嬉しさはあるが、時間割をもう少しうまく分散してもらいたい。	生活造形学科は、実習・実験などで実際に手を動かして作品等を作り上げることを目標の１つとする学科です。 実習を多く取り入れたカリキュラムを通して、学生さんが実力をつけられるようになっています。 課題の締切りが重なる時期もあるかもしれませんが、計画性やスピードを身につけ、２年間学び通すことで、将来の力を鍛えられるよう頑張ってください。

学科・部署	学生からの意見	大学からのコメント
教務部	120名収容の教室に100名程の受講生がおり、空いている椅子が殆ど無い状況です。横の席で寝られたり、私語されたりすると、集中しにくくなる。毎年受講生が多いのであれば、合わせた教室に変更してもらいたい。	教室配当は、受講生の人数の他に、限られた教室の中で、科目担当者からの教室に対する要望や受講生の移動を考慮しています。120名収容の教室に100名の受講生の配当は、確かに狭く感じることもあるかもしれませんが、配当せざるを得ない諸条件を考慮したうえでの配当があることも理解してください。
	受講者が多いと目立たないと思ってさぼる人もいるが、少人数制であれば、目が行き届くので、みんな真剣に受けようとすると思う。	すべての科目を少人数制で実施するのではなく、科目の内容によって、少人数制で実施しなければいけない授業か否かを決めています。演習や実技・実習科目は、少人数制で実施しています。
外国語教育推進室	英語の授業の教科書が中学校での内容ばかりで全然面白くないと言う学生が沢山いる。英会話は簡単なところからやっていくものだと言われたが、それにしても簡単過ぎる。	「英語会話」は、教育効果を高めるために習熟度別授業を行っており、TOEIC-Bridge を使用して、適正なクラス分けができるよう努めています。しかしながら、入学時点の、しかも１度だけの実力テストで全員が満足できるクラス分けをするのは極めて難しいのが現状です。自分のレベルがクラスに合っていないと感じた時は、できるだけ早く外国語教育推進室まで相談に来てください。

学生側から出た「レポート返却の有無」については、前期に行われました教育改革推進委員会においても多くの意見が交わされました。コメントする教員側の負担や、返却が行き届かない難しさ等の課題はありますが、「先生はしっかりと見てくれている」という気持ちが芽生えることによって、授業での学生の反応も変わってくると思われます。学生からの意見を受け止め、授業期間時に実施するレポートについては返却をお願いいたします。

ご存知ですか？

教育再生実行会議
「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について（第七次提言）」

平成27年５月14日付で教育再生実行会議より提言が出されました。提言では「これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力とは何か」がまず示され、その資質・能力を培うには小・中・高等学校から大学までを通じて、課題解決に向けた主体的・協同的で、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）へと授業を革新し、学びの質を高め、その深まりを重視することが必要だと述べられています。また、教育活動を展開するうえで ICT は学習の手段及び学習環境として重要な要素となるため、情報活用能力を高める教育の充実についても言及しています。今後の答申や制度設計に関わると思われる提言であることから、まだご覧になっていない方はインターネット等で確認いただければと思います。

平成27年度　FD 推進委員会メンバー

	役　職	所　属	氏　名		役　職	所　属	氏　名
1	委員長	環境	北村　薫子	11	委　員	建築	田﨑　祐生
2	副委員長	英文	三浦　秀松	12	委　員	音楽	松本佳久子
3	委　員	日文	塩出　　雅	13	委　員	薬学	西川　淳一
4	委　員	英文	野口　芳子	14	委　員	看護	久山かおる
5	委　員	教育	神原　一之	15	委　員	共通	木村麻衣子
6	委　員	心福	大西　次郎	16	委　員	教務部	齊藤　文夫
7	委　員	健康	坂井　和明	17	委　員	教務課	前田　浩志
8	委　員	環境	古濱　裕樹	18	委　員	外国語教育推進室	大澤　　潤
9	委　員	食物	堀内　理恵	19	委　員	教育開発支援室	稲積　包則
10	委　員	情報	太田　健一	20	委　員	教育開発支援室	田中　邦子

文学２号館が生まれ変わりました

大学に関するキーワードとして、“質の向上”という言葉をよく耳にします。その一環でもあり本誌のタイトルにもあるFDを進めるためには、設備等のハード面からも変えていく必要があると思います。そして、創立80周年という節目にむけて、総合心理科学館や学校教育館、看護科学館の竣工など、大きな施設面の変化は、本学の魅力を更なるものにしたことだと思います。このように現代の教育事情に合わせ施設面での変化が進んでいる中、この４月より新しくなった文学２号館３階及び５階を紹介します。

写真にあるように改装されたフロア外観はウッド調の床や明るい色調の壁、LED照明などが用いられ既存の教室にはない雰囲気になり、見違えるような改装が行われました。また、マルチメディア機器をはじめ、アクティブラーニングが行いやすいよう、可動式の机及び椅子が全教室に導入されています。

一部の教室では、廊下側の壁がガラス張りになっており、教室の外から授業の様子を見ることができるようになっています。従来の教室は四方が壁に覆われた閉塞的なイメージでしたが、明るく開放的なイメージになっています。また、教室内の様子が外から見えることで学生もどことなく緊張感を持って授業を受けているように思います。現在、英語の授業がメインで行われていますが、他にも様々な活用方法が考えられます。

また、その他にも写真にあるようなホワイトボードスクリーンやマグネット付のホワイトボードマーカー及びイレーサーが導入されている教室もあります。そして、学生が荷物を気にせず活動的に授業に参加できるよう、収納棚、コートハンガーもあります。このようにアクティブラーニングの環境が整っており、学生にとって学ぶ自由度が、教員にとっても授業の自由度が高い教室だと思います。例えば、写真のように授業内容に合わせ、教室の机や椅子の配置を変えることができ、PBL（Project Based Learning）の要素を取り入れた授業を行いやすくなります。

そして、この夏季休暇には文学２号館の全てのフロアがリニューアルされました。生まれ変わった文学２号館（アクティブ・ラーニング棟）は新たな教室の在り方の幕開けを予感させます。ぜひ体感してみてください。

（FD推進委員　教務課　前田　浩志）

編集後記

平成26年４月に総務省情報通信制作研究所が発行した調査結果によると、若年層ほどメールを利用しない傾向にあるらしい。「メールが使えない新社会人」というタイトルの記事もしばしば目にする。「情報」が高校の必履修科目になり、メールの使用については学んでいるはずの学生達が、「無題」「本文無し」「添付ファイルのみ」と、マナーを無視した送り方をする理由が見えてくるデータだ。さらに筆者自身がLINEを使い始め、その理由を肌で感じた。LINEを使うと、アドレスの入力も、件名を考える必要も、冒頭の挨拶文も何もかもが不要なのだ。相手がメッセージを読んだことも「既読」で確認できる。便利だ。

使わないから忘れるのは当然のこと、試しに授業でメールのマナーを確認し、実践してみた。全員が一般的なマナーに忠実に送受信できた。授業等でメールについて再確認する機会をもてば、まだまだメールが主流の社会に出ても彼女たちが困ることはなくなるのではないだろうか。（編集委員MK）